

は じ め に

群馬大学共同教育学部附属小学校 校長 渡部 孝子

今年度の公開研究会は、４年ぶりの対面での開催となりました。この３年間は、新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら、子どもたちの学びを止めることなく、新たな時代に求められる教育の在り方を追求してまいりました。今年度になり、本校の研究成果を皆様に直接ご覧いただける時機が訪れたことに、胸を撫で下ろす思いです。また、令和５年は群馬大学創基１５０周年にあたります。そして、そのルーツは明治６年に開設された「小学校教員伝習所」からなるもので、本校共同教育学部附属小学校と深い関わりがあります。そこで、今年度の公開研究会は大学創基１５０周年の記念事業の一つとして開催いたします。記念事業のキャッチ・コピー「駆けろ未来へ １５０年の歴史と共に」に表現されるように、附属小学校の研究もこれまでの歴史・伝統をつなぎながら、未来に向けて発展・深化させていく所存です。

さて、昨年度の研究テーマは「社会に変革を起こす子どもの育成（２年次）～『非認知的能力』を高める学びのデザインを通して～」でした。子どもたちの非認知的能力を高め、「社会に変革を起こす子ども」の育成を図るため、現実の生活に可能な限り近付け、具体的な文脈や状況を含んだ【真正な学び】の視点や中教審が掲げる「令和の日本型学校教育」の姿にある【個別最適な学び】や【協働的な学び】の視点を考慮した学びのデザインを試みました。公開研究会では、各教科等部が重視する非認知的能力を発揮できるようにするために様々な工夫を取り入れた授業をご覧いただきました。

今年度の研究テーマは、「共によりよい生活を創造する子どもの育成（１年次）～非認知的能力『目標への情熱』と『粘り強さ』に着目した学びのデザインを通して～」といたしました。本校の学校教育目標「つよく ただしく かしこく」に照らした目指す子ども像は、非認知的能力である「粘り強さ」や「思いやり」、「社交性」等の「学びに向かう力・人間性等」を含み、捉えています。この子ども像に込められた願いの下、研究に取り組んできました。昨年度の研究では、子どもたちが自分自身の学びに目を向け、自分の考えを他者に伝え、納得してもらおうとする姿が確認できました。今年度は、その先を目指し、自分のみならず、他者や社会、自然などの幸せにも目を向けて、共によりよく生きていくことのできる生活を創造する子どもたちを、真正な学びを通して育てているところをご覧いただきたいと思います。

最後に、今年度も群馬県教育委員会及び市町村教育委員会の先生方をはじめ、群馬大学共同教育学部の先生方から貴重なご指導・ご助言を頂戴しました。教職員を代表いたしまして、厚くお礼申し上げます。また、次年度以降の研究に生かすために、皆様から忌憚のないご意見やご感想等をいただければ幸甚です。どうぞよろしくお願い申し上げます。